

セッション G 新しい技術（のるぷろライトシステムズ 大木 昇）

5 演題での発表・聴講は発表関係者+α(8～十数人くらい)で説明と質疑・応答が行われました。

関係者が多いということで、それぞれ関係する研究内容に対して深い意見・コメントが多く活発な討議ができました。3 演題が看護に近い分野での睡眠研究ツールとしての発表であり、使えるかは別として睡眠を広い分野で捉える試みとしてたいへん重要だと思える内容でした。

新しい技術では、比較対象とするゴールドスタンダードがあると比較しやすいですが、動画や脈波、アンケートという技術で比較基準があいまいなため、どれだけの精度があるかが定性的にしか出せないことが共通の悩みのようです。

元々同じ現象を異なる物理量(方式)で計測するので結果が同じになることは難しいですが、精度を求めるよりもどこまで実際の臨床で使えるレベルになるかが課題のように思われます。

座長して残念だったのは、内容が SAS に無理に目的を合わせているような演題があるところです。SAS 以外の睡眠関連疾患や睡眠状態を把握するための新しい技術となる可能性を秘めているのに、SAS を目的としてしまっているために技術が活かされていないような感じがしています。SAS 偏重の流れを断ち切るような新しい検査・方法・技術の発表が欲しいと感じました。

今回の 5 演題ともにまだまだ課題が多く、実際に使えるレベルにはないと思われませんが、継続して実用的なレベルまで上がることを期待しています。

演題番号	演題名	演者	演者所属
G-1	光電脈波を用いた無呼吸イベントの検出手法の開発	鈴木 琢治	株式会社 東芝 研究開発センター
G-2	アクチグラムと自律神経指標を用いた睡眠習慣計測システムの検討	亀山 研一	株式会社 東芝 研究開発センター
G-3	画像処理を用いた乳幼児の睡眠・覚醒状態自動判定システムの可能性	江藤 宏美	聖路加看護大学
G-4	画像処理を用いた小児 OSAS の治療効果評価法の提案	王 媛媛	大阪大学大学院医学系研究科
G-5	小児睡眠質問票の基準関連的構成と標準化	清水 佐知子	大阪大学大学院医学系研究科 数理保健学教室